

## 各DI値の回復傾向はさらに進展するものの、実感を伴わず

6月の情報連絡員報告によると、製造業の売上高DI値はマイナス9.7ポイント、景況DI値はマイナス19.4ポイントと前年に比べさらに改善した。逆に非製造業については前月に比べ若干ではあるが後退しており、回復傾向にはあるものの、製造業と異なり足踏みの状況にある。情報連絡員からの具体的な報告では、売上の増加を伝える声がさらに増えたが、業種によっては今月に入り状況が悪化した事例も散見される。

【製造業63人、非製造業87人、計150人の集計】

### 各項目のDIの動き (前年同月比)

	全 体	製 造 業	非製造業
売 上 高	😊	😊	😊
在 庫 数 量	😞	😞	😞
販 売 価 格	😊	😊	😊
取 引 条 件	😊	😊	😊
収 益 状 況	😊	😊	😊
資 金 繰 り	😊	😊	😊
設 備 操 業 度	😊	😊	—
雇 用 人 員	😊	😊	😊
業 界 の 景 況	😊	😊	😊

😊 …増加、上昇、好転

😐 …不変

😞 …減少、低下、悪化

## ✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主な要望事項
鉄鋼・金属	鍍金加工業	厳しい資金繰り状況が続く中小零細業者に対しては、制度融資の申請時に柔軟な対応を望む。
木材・木製品	建具製造業	2006年の建築基準法改正以降、新築住宅の着工件数が減少している。早期に住宅建築振興策を実施していただきたい。
小 売	自動二輪車小売業	平成21年12月で道交法の改正から、3年7ヶ月が経過したが、この間、駐車禁止件数の累計が約60万件となった。都内における二輪車約120万台のうち、実に半数が駐車違反の取り締まりを受けたことになる。反則金に換算すると約54億円となっているが、このお金はどのような形で使われているのか。二輪車の駐車場整備に充てるなど、駐車環境の改善に努めてほしい。
卸 売	再生資源卸売業	国、地方自治体とも環境配慮型社会を目指す3R活動を一般にさらにPRしてほしい。
	食肉卸売業	口蹄疫の宮崎県からの拡大を防ぎ、我が国の畜産業にこれ以上の悪影響をもたらすことの無いよう、措置を講じていただきたい。

平成22年  
6月

# 業 界 の 声

製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	麺製造業	昨年があまりに悪かった。現状も好況というわけではないが、昨年に比べれば売上は増加している。
	中華麺製造業	若干の勝ち組企業の他は、景況は停滞している。
	製粉業	小麦販売価格の低下により、売上高は減少しているが、増益となっている組合員が多い。
繊維・同製品	ネクタイ製造業	「ネクタイの日」（父の日）前後の販促活動に従来にも増して力を入れたが、売上数量は前年の85%程度であった。
	帽子製造業	天然素材を使った麦わら帽やパナマ帽が人気であるが、中国を中心とした海外からの輸入品が急増し、各社とも苦戦している。
	帆布製品製造業	6月は3月の決算期に次いで売上を計上できる月であったが、今年は伸び悩み予想外の結果となった。
	織物製造業	ここしばらくは売上増加が続いていたが、再び減少に転じている。原材料の先高感が懸念材料である。
	ニット製品製造業	韓国は東大門駅周辺に中小零細企業600社を集約した大規模工業団地を建設し、日本人バイヤーにも直接登録を呼びかけている。ニッチ市場でようやく生き延びている中小零細業者にとって韓国の国策は脅威となっている。
印 刷	印刷業	原材料価格は安定しているが印刷需要は回復していない。また、iPadの販売により電子書籍の話題が増える中で印刷業界に一層の危機感が強まっている。一方、出版社の中には電子書籍化をチャンスととらえる事業者もあり、今後の出版社の動向を注目している。
	印刷加工業	低調状態が続いている。閉塞感を打破しようにも、小規模事業者では設備投資もままならない。
化学ゴム	プラスチック製品製造業	全般的に前年比で生産高は増加した。ただし見積もり査定が大変厳しく行われている。材料の値上げ通達が届いているが、未だ実施はされていない。
	ゴム製品製造業	外需関連は好調であるが、内需関連は非常に厳しい。
	タイヤ製造業	前年よりも売上は上昇したが、「昨年が悪すぎた」との声が多い。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	厳しい状況が変化無く1年以上続いている。
		前年と比べても仕事が少なく、在庫数量が増加。
鉄鋼・金属	缶製造業	今月も受注量は若干上昇。しかし、3年前と比較すると8割程度に止まる。
	ダイカスト製品製造業	自動車関係を中心に売上は増加している。
	鋳物製造業	一部には回復傾向にある組合員も見受けられるが、全体としては回復には至っていない。
	鍍金加工業	新規取引先に対応するため新規設備の導入を検討する組合員がいる一方、設備操業度が落ち込み、ラインの一つを停止する予定の組合員もいるなど、取り扱う鍍金の種類によって仕事量の格差が大きくなっている。
	金属熱処理業	乗用車、トラック、建材用と各分野で好調である。過去のピーク時と比べ、4・5月はおおむね80%、6月は90%まで回復している。
	建築金物製造業	ほぼ底を打ったとの声も聞かれるようになったが、今後上昇に転ずるかどうかは不透明である。
	電線製造業	6月までは好調であったが、7月以降は落込みが予想される。原材料である銅の価格の乱高下が懸念材料である。
電気機器	配電盤製造業	総じて悪化傾向に変化はないが、一部に持ち直しの機運がある。
一般機械	写真製版機材製造業	3月頃より仕事量は少しずつ増加している。収益状況も改善されつつあるが、さらなる企業努力が必要であることには変わりない。
その他の製造	スポーツ用品製造業	テニスは生涯スポーツとして最適であり、根強い愛好者を持ちながらも、テニス用品の市場は低迷している。特にラケットは特価品があふれ、有名メーカーのプロパー品の売上が伸び悩んでいる。買い控えも少なくないようであるが、ボールやガット等、消耗品は売れている模様。
	ガス圧接業	稼働率が上がりつつあるが、受注単価の下落が激しく収益を確保出来るまでには至っていない。
	工業塗装業	仕事量が増加している組合員が1/4ほどあるものの、納期が厳しく、少量多品種の注文が多い。また、品質に対する要求も高まり、作業工程が増加しているため、コストが増大しているが、価格転嫁が出来ない状況にある。

平成22年  
6月

# 業 界 の 声

非 製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	紙卸売業	売上数量は下げ止まった。高級紙の割合が増加した為、価格は若干増加した。
	理容用品卸売業	引き続き売上高が上昇した後、収益状況はさらに改善の兆しがある。
	青果卸売業	仕入れ実績は前年比101.1%となった。
	食品卸売業	食品小売業の売上が伸び悩んでいるが、ネット通販も影響していると思われる。
	鶏卵卸売業	高値で推移していた、鶏も肉の相場も一段落した。その分仕入れコストもやや減少気味である。
	食肉卸売業	消費の低迷に口蹄疫問題が重なり、状況はさらに深刻化している。
	木材卸売業	外国産材は現地価格が高騰しており、円高下においても仕入れ価格は上昇している。
	スポーツ用品卸売業	東京、大阪とともに連合会を構成していた名古屋の協同組合が10月で解散することとなった。
	玩具卸売業	ゴールデンウィークの反動で6月の売上は大幅に減少。7月のおもちゃショーを控えもう一踏ん張りしたいところである。
	電線卸売業	6月に入って電器製品向けを中心に動きが出てきた。建設関係は前年比でマイナスだが、少しずつ回復している。
	再生資源卸売業	鉄・非鉄とも原料相場が落ち込んだ。舵取りの難しい市場の状況が続いている。
	食器卸売業	組合員企業の高齢化が進む一方、後継者不足も問題になっている。飲食店は弁当販売店やコンビニに客を奪われ、苦しい状況が続く。
	ニット製品卸売業	景況は徐々に改善してきている。組合員も微増。
	小 売	木材小売業
古書籍小売業		6月の年度末時点で組合員は減少との結果であったが、組合事業は持ち直しの兆しが見えてきた。まだ楽観は出来ないが、この傾向が続くことを期待したい。
自転車小売業		4・5月の悪い状況から、少しながら改善している。
豆腐小売業		量販店の価格競争のあおりを受けたのか、廃業者が続出している。また、組合からの脱退も相次いでいるため、再加入キャンペーンを実施する予定。
ペット小売業		ホームページを開設している小鳥販売店があるが掲載している小鳥の種類や数も少なく、厳しい状況が伺える。
包装材料小売業		組合員数の減少により組合収入が減少しているため、賦課金の値上げが検討された。
電器製品小売業		6月以降、天候の影響もあり、エアコンが好調。また、各地で行われた集合展示即売会も好調で、多忙となる組合員も増えてきた。
中古自動車小売業		中古自動車の不足は日を追って深刻化している。オークションの出品台数は大きく落ち込み、数量不足から価格が高止まりしている。オークションの成約率は大きく低下。
衣料品小売業		気温が高く天候に恵まれたものの、売上は前年比で大きく割り込んだ。
各種小売業		組合員の売上は前年比マイナスの状況が続いている。組合のカード事業の売上は前年比6%前後低下しており、物販店の先行きの景況感は一層深刻な状況にある。
文具小売業		6月に入り売上が激減。一人あたりの単価も低い。
		年度末に廃業組合員が発生するなど、組合員の減少傾向は止まらない。「見本市」を11月に開催する予定である。
食品小売業		消費者の価格指向は強く、他店との競争が激化する中で、売筋商品の価格を見直さざるを得ない。販売個数の確保が利益を左右している。また、この時期は天候が売上に直結しており、仕入れの精度が重要となっている。
青果小売業		天候不順による野菜の生育の遅れがあったが、今月に入り夏野菜が順調に入荷し始めた。価格は若干高めで推移している。
メガネ小売業	業績を持ち直した組合員もあるが、全体としては来客数の減少、購入単価の下落が続いている。	

商店街	目黒	景況は悪化状況にあるが、下げ止まりつつある。このまま夏場の季節需要が上向き続けることを望んでいる。
	秋葉原	エコポイント制度の延長により売上は維持されている。サッカー・ワールドカップによるテレビの特需は僅かであった。6月26日から8月1日まで「秋葉原電気まつり」を実施。
サービス	クリーニング業	気候の影響で春の繁忙期がずれ込んだ後、大きなピークを迎えることなく終了した。売上は前年に比べ10%は減少した。今年の夏はクールビズが加速するものと思われ、さらに厳しさを増すことは避けられない状況にある。
	公衆浴場業	入浴料金は据え置きとなったが、来客数が戻らない状況が続いている。
	廃棄物処理業	価格競争が激しかったが、若干落ち着きが見られるようになってきた。また、再生資源取扱業者が廃棄物市場に参入してきたことが懸念材料となっている。
	複写業	公共事業の減少により仕事の絶対量が減っている一方、仕事欲しさの廉価受注が続き価格破壊が続いており、売上は大幅に減少している。5月は前年比プラスとなっていたが、6月に入り仕事がない状況が続いている。ただし、デジタル部門は受注があり、人員を増強している。
運送	貨物自動車運送業	零細企業を中心に倒産・廃業が増加している。輸送需要そのものが減少しており、業界には構造変革の波が押し寄せてきているが、時代に即した変化は容易ではなく、そのしわ寄せは、おのずと零細企業に現れている。
	港湾運送業	東京港の5月の輸出入総額が4ヶ月ぶりに国内トップとなった。金額では9,691億円と前年比で24%増となり、その内訳は輸出が31%、輸入が20%の増加である。少しずつではあるが回復の兆しはあるものの依然として実態は厳しい。
建設	内装工事業	今年に入り、一層の悪化の感が強まっている。これまで比較的仕事を確保していた事業者からも仕事が減少しているとの声が聞こえる。